

まえがき

1940（昭和15）年生まれの私は現在75歳です。めでたく後期高齢者になったわけですが、多くの方々がそうであるように、そろそろ自分の人生を振り返ってみる節目に入ったともいえます。一臨床医として生きてきた道をまとめておきたいと考えました。私の個人的な事情がそれを急かせたこともあります。最近体調の芳しくないこともありこの先どれほどの時間があるだろうか、ふと人生の終末が心をよぎることも時折ある自分を意識しています。

医師としての人生をまとめてみる方法として、いわゆる〈自分史〉を書いてみるということではなくて、仕事をしてきた病院・診療所や組織の中での職務上書いた文章や学術的なまとめ、あるいは求められて話した講演の記録などのいくつかを集成してみれば自ずと一臨床医の私の生きざまが見えてくるであろう、という方法を採用してみました。その中身はもちろん自分にとっての生きてきた証そのものであるわけですが、同時にこの本を手にしていただいた方々のそれぞれの分野に関わる意味のある資料としてもお役に立つものになるのではないかと密かに期待して編んでみました。

この本は物語ではありませんので、始めから通して読んでいただく必要はなく、興味のあるところがあればそこを開いてお読みくださるだけでも幸いです。